

# 楓の森アップ°デート



合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第3号

令和5年(2023年)6月6日  
文責 校長 佐藤 政臣

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成

## 気合いを入れて 全力競技！ 運動会



5月27日(土)、運動会を開催しました。保護者、地域の皆様におかれましては、早朝よりご観覧いただきまして、誠にありがとうございました。

子どもたちは、運動会のスローガン「**気合いを入れて全力競技！～あきらめないで笑顔のラストをむかえよう～**」のとおり一人一人が真剣なまなざしで、集中してあきらめずに自分の力を出し切ることができたようです。



また、自分だけでなく、友達の競技中に励ましたり、応援したりすることができたりなど立派な態度で参加することができました。みんなの心が一つになり、大成功の運動会となりました。



以下は、運動会を振り返った各団団長の感想です。

### ～ みんなでがんばった運動会 ～ 赤団団長 6年1組 松本 夏鈴

今年の運動会では、赤団団長になり、応援団をはじめ、1年生から4年生までの応援の指導をすることで全体を見る力がついたと思います。

本番では、1年生から6年生まで、それぞれの競技を一生けん命がんばっていて、とてもカッコイイ姿を見ることができました。

応援団では、それぞれに、はずかしさを捨てることをみんなで確かめ合って、朝、昼休み、放課後もがんばってきました。そんな中でむかえた運動会では、最後までやりきることができました。

また、この3週間の練習を通して、メリハリをつけながら、運動会の練習に取り組めたことは、成長できたことです。

今後の学校生活でもしっかりやる時はやる、めく時はめくで、しっかりメリハリをつけていきたいです。

最後に、赤団はみんなで協力してがんばってくれたことが私は団長として、うれしかったです。

### ～ メリハリをつけることを学んだ運動会 ～ 白団団長 6年2組 藤本 珀

ばくが、この運動会で学んだことは、メリハリをつけることの大切さとメンバーをまとめることの大変さです。

ばくは、昼休みの練習の時に一度ふざけてしまって、団の雰囲気をも崩してしまいました。そのときは、みんなを楽しませようとしてふざけたのですが、団員にやる気がないと思われるしまいました。このままだといけないと思って、普段の自分と団長としての自分を分けようと思うようになりました。

普段の自分は、ふざけたり友達と遊んだりするのが好きな自分ですが、団長としての自分は、団をまとめて、白団が優勝できるようにみんなを引っ張る自分になろうと決めました。

ほかにも、団をまとめることの大変さを学びました。自分でまとめようとしても、自分の仕事だと思ってもほかの人に任せてしまったり声が小さくて合図が伝わってなかったりして、うまくいかないと思うことがありました。そこで一度、副団長に「自分でちゃんと仕切って」と言われたのをきっかけに、「自分が仕切るから話を聞いてほしい」と団員に話しました。そのあとは、ちゃんと団員も話を聞くために集まってくれるようになりました。

いろいろ大変だったけど、メリハリがつけられるようになったし、人のことをまとめられるようになって、よかったです。これからも楽しむときとしっかりするときのメリハリをつけて生活していきたいです。

～ 小学校最後の運動会 ～  
青団団長 6年3組 市本 剛貴

僕が運動会を通して学んだことは三つあります。

一つ目は、仲間を信じることです。青団は、初の優勝ができなかったけど、仲間を信じたら困難なことも楽しく乗り越えられるということが分かりました。

二つ目は、仲間と協力するという事です。協力することで、仲間との絆が深くなることがわかりました。

三つ目は、最後まで気持ちを捨てないということです。運動会が終わった時に、青団の中で優勝できなくて涙を流している人もいました。その気持ちは、とてもすごいと思いました。僕もその気持ちは見習おうと思いました。

今年の運動会を通して、たとえ負けていても、どんなに難しい時や困難な時があっても気持ちを持ち続けることが大事だなと思いました。これからこの気持ちを大切に生活していこうと思いました。

～ 運動会で変わった自分 ～  
黄団団長 6年4組 土佐 勇斗

運動会を通して僕が思ったことは、二つあります。

一つ目は、二分前行動の大切さです。

練習の時、五年生と六年生をまとめていくことが難しかったです。ぶつかり合うこともありました。そこで、六年生が五年生より早く運動場に行き、準備の時は、二分前行動を心がけていました。そうすると、団結することができるようになりました。これからも時間を守り、二分前行動を今よりも早くしていきたいです。

二つ目は、前よりも自分に自信がつかしました。今までの自分は、自信があまりありませんでした。きつ音で言葉がうまく出せないことがあったから最初から不安でした。しかし、みんなが支えてくれていることに気づき、不安がとけて楽になりました。一人一人は、全然違うけど、みんなが一つの思いになれば、それこそが団結だと思いました。応援団長になっていろいろな経験ができてうれしかったです。不安なことについても、あまり考えなくなりました。応援団長になれたことで自分もできるんだと自信がつかしました。これからみんなが困っている時に役に立てるようにがんばりたいです。

子どもたちは、運動会を通して、「メリハリをつけて真剣にがんばることの大切さ、仲間を信じ、協力することでできた絆の深さ、支え合う仲間の存在への気づき」等、多くのことを学び、自分自身の成長を振り返ることができたようです。運動会は、スローガンのもと、心を一つに団結することで、責任感や連帯感を高めるというねらいがあります。この行事に真剣に取り組んだことにより、その高まりが充実感となり、高学年としての自信へとつながったように思います。運動会で学んだことを今後の学校生活に生かし、下級生のお手本になる「あこがれの六年生」になるよう、さらなる飛躍を期待します。

## 言葉遣いは心遣い

### ～ 日常の言葉遣いについて考える～

6月是人権月間です。人権尊重の第一歩は、相手への思いやりです。相手への思いやりがあれば、相手に配慮した言葉遣いになります。

しかし、「しね、ウザイ、キショイ、…」等を平気で友達に言う子がいます。聞かされる相手は、心に傷を負うことになります。

子どもは、様々な場面で言葉を獲得していきます(TVやYouTube、TikTok等で飛び交う言葉を使っているのかもしれませんが)。

ご家庭では、いかがでしょうか。相手を傷つける乱暴な言葉を使っていないでしょうか。子どもが意味もよく分からずに乱暴な言葉を使ったら、言葉遣いとして正しくないということをはっきり伝えてください。おかしい言葉遣いを見逃してはいけません。相手を傷つける言葉を使っていたら、謝罪と訂正をその場で求め、人を傷つける言葉は使わないことを約束させることが大切です。特に低学年の時こそ見逃さずに指導しなければならぬと思います。友達と一緒に常用、乱用するようになったら、感覚が麻痺して注意しても聞かなくなるからです。

6月の人権月間では、「なかまづくり」の取組を行います。学校では、普段何気なく使っている言葉が相手を傷つけていないかを考えさせます。その言葉遣いは、本人の心が決めます。つまり、言葉遣いは心遣いなのです。自分も相手もほかほかするような温かい言葉で居心地がいい、学級、学校になるように人権教育を進めていきます。